

となつて、立派な鏡が出来る。望遠鏡の光力が大きいので、観測に長い時間には必要であらう。倍率は二千五百萬倍まで得られるので、火星は恰も一哩半の距離に近よせられる。火星に人類があることは、それによつて確かめられるに違ひない。

水銀鏡の試験は前にウヰド教授が試みて、直径二十吋の場合に或る程度成功したが、一足飛びに直径五十呎といふのは少々六つかしくはないか。

## 同好會報

○一月例会 本誌前號の表紙裏に豫告してあつた文が、誤まつてゐたため、例会は廿一日(此の日は土曜)にあるのか、翌日の日曜(二十二日)にあるのか、まごつかれた會員が多かつたのは御氣の毒であつた。それで幹部は協議の末、兩日とも開會するに決し、先づ廿一日午後七時から、京都大學星學研究室にて、古川龍城氏の

講演「火星について」あり。大阪から來會せられる熱心家もあり、會後一同、黃道光及び星雲、二重星を觀望す。次で翌二十二日夜は、大學集會所で開會、山本助教の

講演「二重星の話」あり。今夜は曇りであつたので、ゆつくりと懇談した。

## ○洛南定期講演 第二回は一月十四日

午後三時、山本氏の「太陽系餘論」。又第三回は二月五日午後二時、同氏の「太陽の話」。場所は前記の如く伏見京町大黒の吉田氏方。因に右第三回の日の午前、山本氏は同所の基督教禮拜式に於いて、「絶対の神」と題する説教をせられた。論旨はアイヌスタインの相對原理から見た新しい神觀であつた。

○岡山支部十一月通信(水野) 一、天界研究會第十一回十二日宮原幹事宅にて開催。

二、一ヶ年の回顧天文同好會規則第三條に「……會員密集ノ地ニハ支部ヲ置クコトガアル」事ありすが最初支部が設置せられたのは大正九年十一月二十四日當支部である。同年十一月二十一日山本本部幹事を岡山驛に迎へましたが、迎へらるゝ山本幹事も迎へる小生も顔を知らないので小旗に「天」の字を書いてそれを持ち印しとしてやつと見つけたのだ。それから後樂園で天界第一號を見たのは昨今の様なれど、早くも一ヶ年を経過した。何分當地では天文学の講演は初耳なので山本幹事を迎へたば迎へたか如何かと思つて居たら新を好む人氣に合したが案外毎回盛況を呈し滿場溢るゝが如き聽衆を得、一躍して全國に率先し支部の設置を見るに至り續々入會者があつた。少くも五十名位の會員を得たいと思つて居たのが見る／＼中に百名を突破したのは實に痛快であつた。大正十年一月からは毎月

第二土曜日には「天界」研究會を開き、隔月一回例会を開催し、一月には岡山縣主催で時博覽會が催され新城博士、山本理學士の講演があつて各方面に趣味者を得、同月末六高教授宮原節氏は幹事を囑託せられ、六月には時記念日に際し三度山本理學士を迎へ、岡山、津山、倉敷で大宣傳行はれ中にも岡山では岡山天文學設置運動の爲め講演會が催さるゝ等、岡山縣に於て慥かに天文学に關するレコードを作つた事を確信するのである。

三、一ヶ年間會員の異動入會者百四十七名、内轉出者六名、退會者六名、現在會員百三十五名。

四、講習會十二月二十六日から四日間岡山市立商業學校で山本理學士「實際天文学」に就いて講演せらるゝ筈である。此の上にも多數會員諸君の御援助によつて本會の益々發展を期するの同時一方「岡山天文臺」の實現せらるゝ様一層の努力を要するのである。

○支部新設 昨年末來、信州支部内の會員數が甚だしく増加したので、今回同支部を廢し新たに長野縣下に五支部を置くこととなつた。支部名と幹事氏名は

「上田支部」	幹事	登氏
「長野支部」	同	黒岩魁一 郎氏
「松本支部」	同	上條 清人氏
「諏訪支部」	同	三澤 勝衛氏
「高水支部」	同	宮川 周治氏

又更に一つ、左の支部を新設す  
 「廣島支部」 幹事 熊野 徳一氏